

山田みやこの活動報告

平成30年10月18日(木)

小山市にある「小山フリースクール おるたの家」を訪問

稲葉祐一朗代表に話を聞いた。

ボランティア11名(その内大学生は10名)

入会金5万円、月会費3万円。会費と寄付金で運営。

財政的に運営は厳しい。生徒数6名(高校生年齢1名・

中学生年齢2名・小学生年齢3名)

現在小山市は200名の不登校児童生徒がいる。その内
適応指導教室に通っている子は20名、それ以外の180
名は自宅にいるのかもしれない。

子ども達の学ぶ権利は保障されていない。

代表の稲葉氏は、フリースクール全国ネットワーク
主催のフリースクールスタッフ養成講座にて研修を
受け、2016年9月に「おるたの家」を設立。生徒は
ネットで公募した。

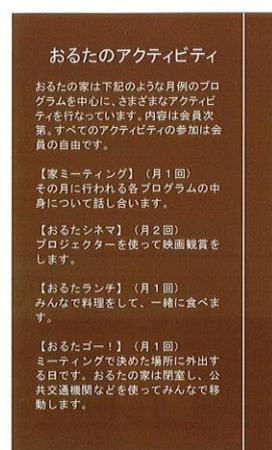
教育機会確保法ができたが不登校児童生徒に対する
学校以外の学びの場の選択肢がまだまだ確立されて
いない。学校に行かなくてはならないと思っている
がどうしても行けない。行けないことに苦しんで、
やっとこのフリースクールにたどり着いた子ども達
がいる。

小山市では「おるたの家」へ来ることが学校出席の
扱いとして認められた。フリースクールへの理解を
している先生がいたことが出席扱いになったことに
繋がった。

市教委、教師、フリースクールの理解と連携がます
ます求められる。

稲葉代表の言葉です。

「心も身体も柔軟な子どもの内にこそ、自由を与え
られるべきと考える。日々の生活の中で様々なもの
に触れ、自分とはどういう人間かを身体的に学んで
いく時間を与えることが、大人になった時のしなや
かさに繋がるのではないか。



おるたの家って、こんなところ!

学校ではない、新しい居場所

小山フリースクールおるたの家は、学校に行かない子どもたちのための居場所です。小山駅から徒歩で10分ほどの場所にある一軒家を使い、子どもたちにとって居心地のよい空間作りを取り組んでおります。2016年9月にオープンし、会員となった子どもたちは毎日のように来室し、ゲームをしたり、おしゃべりしたりしながら過ごしています。

学生ボランティアがサポート

オープンする半年前から学生ボランティアたちが集まり、どのようなフリースクールにするか意見を出し合いながらミーティング、勉強会を重ねてきました。ボランティアスタッフたちは日替わりでおるたの家に来て、子どもたちの気ままな時間を楽しんでいます。教師のような存在ではなく、何でも話せて一緒に遊ぶ、ときには勉強や将来のことを考えるサポート役として、おるたの家にとって欠かすことのできない存在です。

自分たちで作るフリースクール

おるたの家の3つの基本理念は「居場所であること」「自由であること」「協調すること」です。それらの理念に基づいて、学校のように大人の側から一方的に何かを与えるのではなく、自分たちで自分たちに合ったフリースクールを作っていくことを目標にしています。

「受け皿」から「選択肢」へ

私たちは「学び」とは日ごろの生活の中にあるものだと考えます。自分たちが主体的に生きようとするとき、「学び」は生まれます。ミーティングを通して自分に聞けることを決定し、何かを作ったり、誰かを招いたり、また外に出かけたりというかたちでさまざまなアクティビティを計画することによって、学校では得られない「学び」のかたちを実現することができます。学校に対する「受け皿」ではなく、学校以外の「選択肢」となることがおるたの家の目標であり、このような多様な学びを受け入れられる社会の実現を求めています。

自由とは簡単なことではないが制約や規制を与えることが人に安心感を与えることも事実。

しかし一体何をもたらしたらいいのかと考えること。人に言われたこととするのではなく、自分の頭で考えること。そのことに慣れていくことが自分で考える力を養うものと考えている。

自由とは何かを自分で発見し、その自由の中で自分に必要なことは何かを見極め、実行していく。そういう力を身に付けることが教科を学んだり、特定の技術を身に付けること以上に生きる上で必要な力だと考える」

※フリースクールのあり方や、位置付け、財政補助を今後、議論していくべきと考えます。

